

開示請求したむかわ町の公文書から見えたこと

私たちが、「むかわ竜」と言うのはおかしい」「穂別の人も違和感を持っている」との思いからこの取組みを始めて4年が経ちましたが、取り組んでいくなかで、あまりに異常なことが起きていくことを知りました。それらはニュース1号から14号で詳細に伝えてきましたが、「穂別の問題」、「むかわ町の問題」では済ませられない重大な問題です。

「歴史を切り拓き、地域を創ってきた人たちが、いま地域を支えている人たちへの行政の向き合い方」、「社会を営むうえでの常識とルールへの行政の態度」「文化に対する行政のあり方」等の問題として、見過ごすことができない深刻な事態を作っていると考えています。そこで、改めてこの問題に関する町の公文書の開示を求め、元々の決定と説明経過を検証することにしました。

新たに分かった、町民への「ゴマカシ」の数々

1 むかわ竜の根拠は何もなかった。説明文の「根拠」は疑問や抗議が出てから作ったもの
通称を「むかわ竜」とすることを決めた稟議書では、「むかわ竜」とする理由を「課の意向として、『稲里竜』『穂別竜』『むかわ竜』のどれかという案があり、『むかわ竜』が良いとの方向に至っていた。」「発見者は、『穂別竜』は、ホベツアラキリユクがいて、『稲里竜』は、意味が分からないだろうと言っている。」の2点だけです。4月と9月の町の説明で言っている命名の根拠は、通称を決めた

2 町の説明文はいずれも誰かが勝手に作って載せたもの。

「町の開示文書と文書不存在通知書」から、4月と9月全町民に届けた「説明文」が、いずれも町の公文書として作成・決済されたものでないことが明らかになりました。誰かが作ったイカゲンなウソの文書を、町として決済した文書であるかのように「ゴマカシ」で、全町民に届けたのです。

*説明文で根拠にしていることにウソが多数使われていることは、これまでのニュースで紹介しています。

なお、会が令和2年11月23日に提出した「開示請求の第1項目」への回答として、町は「平成29年3月13日提案の文書」を送ってきました。しかし、この起案文書は、「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画」を町民に周知するための「概要版」を広報に掲載することにつ

3 発見者の意向で決めたと言いつても「ゴマカシ」です。

「発見者の意向で決めた」と聞いた人は、「発見者が最初に『通称を決めよう』と考えた」「発見者が『むかわ竜にしよう』と言いつつ出した」と考えます。しかし、実際は、平成28年8月に町が発見者に「通称を決める」と切り出したのです。そればかりか、発見者が「考えておく」と言っているのに、町の一部の人たちが、発見者の意向を聞かずに検討を始め、「むかわ竜」とする「意向」を決め、10月にそのことを発見者に電話で伝えたのです。そればかりかその電話では、発見者に「むかわ竜」「ほべつ竜」「稲里竜」からの選択を迫ったのです。

4 「通称名を変更する」とも考えている」との「ゴマカシ」

4月の説明文は、「通称名は、今後、様々な事情により変更されることも考えられます」と言っています。しかし、稟議書ではそのような文句はまったくありません。それどころか、稟議書には「新年度の予算に商標登録費用を

会が開示を求めたのは、町が「むかわ竜」命名について説明している4つの文書―「通称を決めた稟議書」「広報2017年1月号」「広報2017年4月号折込資料」「むかわ竜かわら版2017年9月27日号」―に関する公文書です。

開示請求に対する「町の開示文書と文書不存在通知書」から、これまでのニュースで指摘してきた「むかわ町行政のイカゲンさ、町民へのウソが常態化している異常さ」が、いっそう深刻なものであることが明らかになりました。

このニュースでは、そのことを全国のみなさんに知らせ、真剣に考え、声を上げるよう呼びかけます。

なお、会の「開示請求文書」と町の「通知書」「命名」についての3つ説明文書は、資料として添付しました。

たときの稟議書には載っていません。また、稟議書を作成するときに作っていたのなら、4月と9月の説明文が違うことはありません。

町民の抗議や疑問が大きいために、「むかわ竜」命名の根拠を示す説明文を作らなければならなくなって、その場しのぎで作った「根拠」を、いかにも決めたときからあったように「ゴマカシ」したのです。

いての起案であり、「むかわ竜命名の説明文書」は含まれていません。起案文書にある「町HPで公開」したのが「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画（概要版）」だけで、「命名の説明文書」が町HPにないことがそれを示しています。実際に起案されたのなら、「わずか4ヶ月前、通称発表直前の11月下旬に決めた」ことが、「10月に決めた」となっているのを、9人もも決裁者の誰も指摘しなかったのでしょうか。

誰かが作ったイカゲンなウソの説明文を、公文書として決済された「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画（概要版）」の裏面に載せて、いかにも町の公式文書であるかのように「ゴマカシ」で、町民の疑問と抗議を抑えようとしたのです。

或いは、8月に発見者と会って話したとき、「むかわ竜」とする町の意向を伝えただけでなく、「むかわ竜」「ほべつ竜」「稲里竜」からの選択を迫り、なかなか返事がないので、10月に電話で催促して認めさせたのです。

いずれにしても、町が発見者と直接話したのは1回だけ、その日付も内容も定かではありません。その後1ヶ月半以上も発見者から連絡がないので電話で催促しただけです。また、発見者が通称の案を言い出す前に、町がむかわ竜とする意向を決め、発見者に伝えたのです。

これで「発見者の意向で決めた」と言えるでしょうか。

計上する」と書いています。むかわ竜と決まってしまう商標登録のことを言わないで、逆に、「変更の可能性がある」と、稟議書にないことを書いて「ゴマカシ」、町民の疑問や抗議を抑えようとしたのです。

北海道遺産に登録された、世界に誇る「森と化石とロマンの里：穂別」の名と歴史を輝かせよう

化石の里ほべつを応援する会

2021年5月30日

連絡先

☎・FAX 011-385-8368 田中弓夫
Mail: yytanaka@palette.plala.or.jp
HP: http://kyouryu-hobetsu.net

新たに出てきた、町民へのウソとイイカゲンな態度

1 調査もしていないのに町民に全国の事例を調査したとウソ。

町民への説明文では、「全国の恐竜先進地の事例を調査して確認した結果、「自治体の名称が付けられていることが多い」とか「発見者が名付け親となっている事例が多い」と言っていますが、稟議書にはそのような記載はありません。

また、全国の調査に関する会の開示請求に対して、町は「請求内容に係わる公文書の作成実績はない」と回答しています。

「調査をしていないのに、調査した」とゴマカシて、ウソの説明を本当のように思わせようとしたのです。行政当局が、やっていない仕事をやっていると言っていると町民に言っているのを隠そうとするようでは、行政そのものが成り立ちません

*請求内容は1町の説明文で、「全国の恐竜先進地事例を調査した」と言っている時期や方法、結果等

2 丹波竜と丹波市を都合良く利用しようとするイイカゲンさ

稟議書では、カムイサウルスだけでなく、「今後穂別で発掘される恐竜化石骨すべてをむかわ竜とする」と言っています。どうしてそうするかの説明はありません。そのことに対する疑問や質問にたいして、4月になって「丹波竜で有名な兵庫県丹波市を参考に、本町内で発見された恐竜群全般の名称(総称)も『むかわ竜』とした」と説明を始めます。しかし丹波市は総称との言葉は使わず、丹波竜も丹

波市で発掘されている沢山の恐竜化石の一つです。このことは調べればすぐわかることです。

町は、町の説明を裏付ける調査資料について「請求内容に係る公文書の作成実績はない」と回答しています。丹波市が「総称」と使っているかどうかを調べもせず、町民をゴマカスためのウソに「丹波市と丹波竜を都合良く利用」したのです。

3 町がむかわ竜の命名を決めた日さえまともにも言えないイイカゲンさ

町は、4月と9月に全町民宛にむかわ竜命名の根拠なる説明文書を配っています。(別紙資料)。4月の文書では、「昨年10月に・(略)・むかわ竜とした」と説明しています。しかし、命名のための稟議書が起案されたのは11月18日で、10月に決まっているはずはありません。

そればかりか、9月の文書では「12月に命名した」と言う始末です。いつ命名したのかさえまともにも知らない職員(?)が作ったイイカゲンな文書を、いかにも公文書であるかのように、全町民に届けたのです。

むかわ竜の命名は、僅か4年で破綻の道に向かい始めた

町の一部の人たちは、元々使われていた「穂別恐竜」との通称を使えないようにして「むかわ竜」の通称に変えただけでなく、「穂別で発掘される恐竜化石の総称をむかわ竜とする」として、「恐竜と穂別の繋がりを」「化石とロマンの里―穂別―」を消し去る動きを進めました。その動きは、4ヶ月後に全町民に配られた「むかわ町恐竜ワールド構想推進計画〈概要版〉」に、旧鶴川町の四季の館とたんぼ公園が発

信拠点として2度も出てくるのに、穂別の文字はまったくなく、博物館も穂別博物館と書かない異常さです。そればかりか、翌年、穂別地区の古生物化石群が次世代に残したい北海道遺産に選定・登録されたときも、「広報むかわ」にはまったく載せない異常な手法です。しかし、恐竜化石を利用して、化石と穂別の繋がりを消し去り、むかわ一色にしようとするこの4年間の経過は、そのような理不尽が通らないことを明らかにしました。

破綻1 北海道遺産協議会が穂別地区を北海道遺産に登録

北海道遺産協議会は2018年11月に、穂別地区を「日本初の大規模恐竜全身骨格として国内外から注目されたカムイサウルスの他にも、『ホベツアラキリュウ』などのクビナガリュウやモササウルスなどの海生爬虫類やアンモナイトなどを多数産出する顕著な地区」として評価し、北海道遺産に登録しました。恐竜化石だけを取り出して、「森と

化石とロマンの里・穂別」として進めてきたまちづくりを止めて、無理矢理「恐竜のむかわ」に変えようとする企てに道理がないことが明らかになったのです。

なお、むかわ町は、穂別地区が北海道遺産に登録されたことを、2年半過ぎた今に至るまで、一度も広報むかわに載せていません

破綻2 今使っているのは、一部のマスコミの記事の一部

今、「むかわ竜の通称」を使っているのは、むかわ町に係わる記事や放映で使われるのを除けば、多くあるマスコミの一部になっています。それも、記事や放映の一部で使う

だけで、全体では「カムイサウルス」とだけ言っています。学者、研究者の人たちも同様で、カムイサウルスと言うだけの人たちが主流になっています。

破綻3 むかわ竜はカムイサウルスだけでなくなった

今年に入って、「新種とみられる恐竜の化石」が発見されました。鳥脚類のカムイサウルスと違って、獣脚類と見られています。むかわ町は「今後むかわ町内で発見される恐竜化石骨も含めて、総称してむかわ竜とする」としていますから、この化石もむかわ竜になり、むかわ竜はカムイサウルスだけでなくになりました。一方、むかわ竜との通称を使っている一部マスコミは、「むかわ竜発見に匹敵する発見・・・」などと、カムイサウルスだけをむかわ竜と言っています。

町は、2018年8月の記者会見で、私たちの指摘に答えることができず、「むかわ竜の名は新聞やテレビなどを通じて全国に広く認知されているから使って良い」とごまかしました。

しかし、今、一部のマスコミが言う「むかわ竜」はカムイサウルスですが、町が言う「むかわ竜」は違うことになりました。頼りにする一部マスコミとの矛盾も出てきて、「むかわ竜」破綻の流れが、更に加速することになります。

わずか4年で破綻の道に向かい始めた「むかわ竜」命名の動き

報道関係への署名数は

4月末で1116筆です

コロナ禍で署名活動が難しいので、報道関係への署名は一旦休止します。当面は、別な方法で賛同者を募り、申し入れ等の取組を進めます。